

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871101388		
法人名	医療法人 尚和会		
事業所名	グループホーム ケアホーム宝塚		
所在地	(〒 665-0047) 兵庫県宝塚市亀井町10-51 電話 0797-71-2828		
自己評価作成日	平成23年4月22日	評価結果市町村受理日	平成23年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2871101388&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2871101388&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2-14-703
訪問調査日	平成23年6月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宝塚第一病院を系列に、老人保健施設に併設されており、緊急時の医療体制が充実している。ホーム内は、家庭的な雰囲気を大切に家具、調度品も、なじみの物を持って来て頂くなど工夫を凝らしている。リハビリ庭園には、四季おりおりの花が植えられており、花を見ながら散歩や、ベンチでのティータイム楽しませている。ケアプランにセンター方式を採用し、担当スタッフが中心となり、本人、ご家族様から情報収集、思いや希望、利用者の会話記録等を通じ、本人主体の思いを引き出し笑顔で穏やかに過ごして頂けるよう、ご家族様と共に支援している。看護師も毎日訪問し、健康面でも安心して生活して頂いている。ホーム内では、ゆったりとした時間を過ごされ、更に定期的な外食、ご家族様を含めた外出行事、施設全体のイベントやコンサート、クラブにも自由に参加できる。ランチパーティーの時には、畑で採れた新鮮な野菜を持って来て頂いたり、退所後も家族様のご好意でヴァイオリンコンサートを開催して頂いたり、ご家族様も含めた交流が出来ている。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①医療連携体制(日常からの健康管理及び緊急時における連絡体制、入退院の医療機関との連携が整備されている。また、支援計画作成の際にも、医師・看護師を含め理学療法士等の医療専門家からの意見を必ず頂いており、医療面におけるの支援も安心できる内容となっている。)②家族との信頼関係(日々の状況報告や家族との相談等、家族との「報・連・相」が良好である。家族や友人の協力による外出支援、毎年恒例になった家族演奏のコンサート開催等、事業所と家族が一体となった利用者への支援が展開されている。)③日常生活におけるアクティビティの充実(法人内の他サービスの利用者との交流。法人内でのイベント参加。多彩な趣味サークルへの自由参加。敷地内には、リビングから車椅子でも安全に出ることができる手入れの行き届いたリハビリ庭園があり、いつでも気軽に散歩を楽しむことができる。外食や出前、ランチパーティー等、食事を楽しむことへの支援も充実している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【「であい、ふれあい、えがおの輪」を理念とし、一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、地域住民と共にパートナーとして支援すること」を基本方針とし、地域の方々と交流を図り、施設内の行事、地域の行事への相互参加に努めている。	平成23年度事業計画の中でも、理念をより具体的に実践に繋げるよう捉えている。個別ケアを進めるための、アセスメントに力を入れており、スタッフ全員が協力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の賛助会員となり、夏祭りや運動会、とんど等、地域の行事に積極的に参加している。更に幼稚園や小学校、市主催の行事にも積極的に参加し、交流を深めている。	地域から年間行事の情報を入手し、積極的に参加している。亀井町の自治会にも加入し、隣の行事にも参加している。(ケアヴィラ宝塚)主催の夏祭りには、近隣から400人以上の参加者がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の老健が主催している「まちの保健室」に協力し、血圧測定、骨密度測定等を行っている。更に、認知症の方の対応の仕方、介助方法等の相談があれば随時説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	自治会長、市役所職員、市立病院地域医療室職員、利用者、利用者家族、近隣グループホーム職員を委員として2ヶ月ごとに開催し意見交換を行っている。今年度より、利用者の生活場面を覗いて頂き、直接ふれあって頂く為に、ケアホーム内で開催している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催されており、家族会や利用者の意見も多く出されている。自治会会長や病院のMSWなども出席し、地域や同業者との意見交換もできている。	時には、会議の議題に沿った方(消防・警察等)も、オブザーバーとして出席して頂く事で、専門的な知識を頂ける機会となります。ご協力を願ってみては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の行事や研修には積極的に参加している。近隣グループホームの運営推進会議にも毎回出席し、市役所職員とも交流を深め、意見交換を行っている。	市主催の研修や文化祭、イベント(車椅子レクダンス等)にも参加している。地域包括支援センターとは、サポーター研修等でもフォローしてもらっている。	研修や勉強会など、今後も市町村との連携を継続されることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、研修会、事例検討会やケアホーム会議等で周知を徹底している。リハビリ庭園、同フロアに併設している通所リハビリテーションやロビーにも自由に行けるよう開放すると共に、安全に配慮しながら開放感のあるケアの提供に努めている。	グループホーム単体の建物ではないため、人の出入りが自由になっている。日常的に見守りや安全確保に努めている。身体拘束排除の取り組みに対する研修は、法人として全体で取り組んでいる。	広い敷地面積を有効に活用された居住環境の利点の中で、利用者が生き生きと暮らし続けられるケアの実践に今後も大いに期待をしたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員全員に周知徹底を図るとともに、施設内研修に参加し、利用者への職員の対応について、職員間でカンファレンスを行っている。	職員の心理的な側面を意識し、職員間のカンファレンスを行っている。事業所内の研修は定期的に行われており、今後事例検討会などでも取り上げていく予定。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に参加し、職員間での伝達講習を行い共有を図っている。入居時やキーパーソンの変更時、及び家族からの申し出時に研修で得た情報を活用している。	管理者や家族が、成年後見の事例経験を持っており、職員の外部研修も積極的に行っている。今後、家族の意向などにより、ケースバイケースで対応していく予定。	

自己	者 第	目 項	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望される際は、「入居のご案内」のパンフレットに基づき説明後、ホームの雰囲気体験できるよう、施設見学、レクレーションへの参加、利用者との歓談等に参加して頂いている。その後、不安、疑問点を確認し、理解を深めると共に共通認識の下、重要事項、利用契約について説明し、了承して頂いている。	重要事項などを分かりやすくまとめた「入居のご案内」を別に作成している。事前に書類などを渡し、後日疑問点等を聴く機会も設けている。利用者本人が馴染みやすいように、見学や体験にも柔軟に対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にケアホーム宝塚の苦情相談や担当者、市町村の窓口について明記し説明している。ホーム玄関には意見箱を設置し、手順に基づき開封し公表できるようにしている。又、毎月来訪される市の介護支援相談員にも相談出来る体制である。寄せられた内容は、ケアホーム会議、運営推進会議において検討し、ホームの質の向上に反映させている。	訪問時や家族会などで意見を聴く機会を設けている。アンケート回答からも、家族は意見が出しやすく、事業所がしっかりと対応できている様子が伺える。出された意見を、運営推進会議や事業所の会議で取り上げ検討している。また、市の介護相談員の訪問も導入している。	今後、更なる運営の適正化の取り組み事項として法人内で、第三者委員会(第三者委員)の設置も検討してみても如何でしょうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、スタッフカンファレンス(随時)、ケアホーム会議(1回/月)、年間目標の評価時等、運営に関する事項について協議・検討し反映させている。個別面談などいつでも管理者、副施設長と意見交換出来るシステムとなっている。	職員の個別面談を3ヶ月ごとに行っている。研修なども法人と合同で開催し、各委員会や人事交流など、意見の出しやすい環境整備がされている。管理者は、日ごろから職員の意見を聴くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に個人目標シートで目標に対しての努力、悩み等を記入し、中間、年度末で評価させ、それを基に、個別面談を行い、モチベーションの向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用時には資料に基づきオリエンテーションを実施し、現場においては個別対応を基本としたOJTを実施している。外部研修ではそれぞれの能力、得意分野に合わせた研修に参加し、研修の情報を全スタッフで共有している。内部研修は必ず出席出来るシステムとし、職員の能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員対象の研修会への参加、介護専門員研修、市社会福祉協議会主催の研修や、運営推進会議での他グループホームとの情報交換、施設間での行事参加などでの交流を行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には、ご家族と共にホームの見学や体験を通じて不安の解消に努めると共に、ホームで生活する事への希望を聴き、入居前から信頼関係の構築に努めている。入居後は担当者(受け持ち制)を決め職員間で情報を共有し、日常生活に慣れ、感情を表出しやすい雰囲気作りに配慮している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には利用者と共に見学して頂きホームの雰囲気を体験して頂いている。担当の介護支援専門員との情報交換やいつでもお互い理解し合えるよう話し合う機会がある事を説明し対応している。又、老健や第一病院からの入居者に関してはこちらから伺い話を聞く等事前の関係作りを心掛けている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師、看護師も同席し、医療・看護・介護上の視点から、サービス内容を見極め、必要時受診や、介護老人保健施設を紹介し、担当介護支援専門員と情報を共有しながら対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【パートナーとして支援する】ことを基本方針とし利用者、職員共に支えあい、お互いの持てる力を発揮している。今までの人生において色々な経験をされた方という尊敬の念をもち、先輩に学ぶ姿勢を持って対応している。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式を活用し、各居室担当、介護支援専門員を中心にご家族から情報収集し日常生活に取り入れたり、介護計画立案時は、ご家族に参加して頂き、ご家族の要望等を伺いながら入居者、ご家族の橋渡しになる事を心掛け支援している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今まで築いてきた大切な友人や家族がいつでも訪問しやすい雰囲気作りを心掛け、本人が大切にしてきた人や、なじみの場所(喫茶店や美容院)との関係を継続できるように支援している。	行きつけの喫茶店や美容院へ出かけたり、毎週教会へ出かけることも支援している。ボランティア等とも、馴染みの関係を作っており、友人や家族が外食に誘って出かけたりのもしている。。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が自然とフロアに集まり、会話やレクリエーションを楽しんでいる。また、体の不自由な方には手を貸すなど、支え合って生活をしている。職員はその雰囲気作りに努め、1人である方があれば声かけて孤独感がないように配慮し、皆と共に楽しめるよう様に支援している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には面会に行き、本人・家族の話を傾聴している。また、退所後も、季節の行事に招待し、参加して頂いたり、馴染みの関係の維持を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、入居者とのコミュニケーションをとり、思いや意向をくみ、希望に添えるよう支援している。また、家族の意向にも応えるよう努めている。困難な場合は、本人の立場にたち、話し合いながら支援している。	会話記録や日々の行動記録の中から、利用者の思いや意向を把握してパソコンに入力し、内容を職員で共有している。記録の書き方等は、管理者が気付いた点をチェックしている。	把握した情報や内容を、使用様式(センター方式)に活用できるように連動継続することが望まれます。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を採用し、本人・家族から情報を収集し、これまでの生活スタイルを尊重しながら、その人らしい生活が送れるよう、最大限の支援をしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員・看護職員が協力し、日常生活や身体状況、更に有する能力について、総合的な現状を把握・評価し、その方にあった支援をしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人と、家族、医師、看護師、介護職員等の関係者が、身体的・精神的・社会的視点から意見や情報を交換し、現状に適した介護計画を立案している。	状況に応じて随時カンファレンスを行っている。介護面の他、医療面での専門的な意見、家族の意見等も参考にして、心理面や社会的側面からも検討した介護計画が立てられている。	日々のケア記録の充実の他、計画の定期的な見直し時期には、家族からの要望等を把握しやすい様子を工夫される等、更に充実したアセスメントに期待をします。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子やケア実践内容、家族の要望を日々の申し送りや会話記録、カンファレンスにて情報を共有し、介護計画の見直しに反映すると共に、カルテに記録している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老人保健施設のクラブ活動や季節行事などに参加し、楽しみを共有したり、庭園での散歩・理髪・シャトル便での買い物・ドライブ、受診など、併設施設の機能を最大限に活用し、日常生活を楽しんでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校でのコンサートや幼稚園の運動会、自治会の夏祭りなど地域行事に参加している。また当施設にて消防署員、利用者も参加した消防訓練、ボランティアによる音楽会やクラブ活動など、交流を図っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護・看護職員は併設の介護老人保健施設に常駐の看護師や利用者が以前からかかっているかかりつけ医との情報交換、連携を図っている。また緊急時は協力医療機関(宝塚第一病院)の受け入れ態勢が整っており、診察時には利用者の状況が適切に伝達できるよう、日々記録を徹底している。	介護老人保健施設からの入居者が多いが、個々のかかりつけ医との連携は大切にしている。歯科医等の往診は毎週来てくれている。法人内看護師が、随時に介護職員を医療面でフォローしてくれる体制ができています。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は毎日利用者の健康管理を行っている。併設の介護老人保健施設の看護師にも毎日申し送りをし、24時間体制で常駐しているのでも対応可能である。また訪問看護ステーションの看護師とも連携を図っている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設Dr. の診療情報提供書、介護・看護サマリーを提供している。職員も随時面会に行き、主治医や看護師から入院中の状況や退院後の注意事項などを聞き、職員間で共有している。また病院のソーシャルワーカーとも連携を取っている。	ホームの法人母体が医療法人であり、医療機関との連携がしっかりとできている。病院のMSWIにも運営推進会議に出席してもらい、意見を訊いている。病院の入退院時、カンファレンスには管理者やケアマネが出席している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としての方針のガイドライン、マニュアルを作成し、職員間で共有すると共に、家族への説明を行っている。利用者、家族の意向を考慮しながら個別的に対応し、かかりつけ医とも連携を図っている。重度や終末期の利用者がその人らしく生活していただく為に、ホームでできる事、できない事についてカンファレンスを行い、予想される今後の変化について検討し、医師・看護師に情報提供し対応できるようにしている。	ターミナルケアについてのガイドライン(指針)もあり、家族の思いや意向を医師が確認し適切に対応している。事例を通じて、「職員のふり返り」を行っており、問題点や課題の整理をしている。	ターミナルケアに関しての職員の意識を確認しておく機会も持たれると良いと思います。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止対策マニュアルは高齢者に多い事故発生時の対応についてまとめてある。カンファレンスや研修会を開催し知識・技術について習得している。人工呼吸や心臓マッサージやAEDの活用について理論と実技を訓練し、急変時や事故発生時に備えている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、施設の防災設備を周知している。年2回の消防訓練は利用者の方も参加し、また地域の消防署の指導も受け実施している。地域の方々にも災害などの緊急時、協力を得ることができるよう、施設の行事や研修会に引き、日頃から施設への理解を深めていただけている。	年2回の消防訓練では利用者も参加している。夜間の想定訓練も行っている。AEDの取り扱い研修等も行われている。自治会との話し合いも行っている。法人全体で防災の連携が取れる環境なので安心感に繋がる。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に尊敬の念を常に持ち接している。人生の先輩に対する言葉使い、声かけや対応の仕方について、入職時のオリエンテーション、OJT、施設内研修の実施により、職員の意識向上に努めている。またこのような研修などを通して、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底にも努めている。	家族に協力を願い、利用者の写真(生活歴の中での思い出の写真)をDVDで編集している。介護者が知らない頃の利用者の様子を知ること、利用者を身近な存在と感じ、職員の権利擁護の意識向上に繋げる取り組みをしている。法人としての研修も、定期的に行われている。	今後も、利用者への尊厳を大切にするこの取り組みを、是非、継続して頂きたい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当者が、入居者の思いや希望に近づける様に、信頼関係を作り、笑顔を引き出せる対応を行っている。日常での会話、今までの生活の事、心配な事、嬉しかった事等、会話記録に記載し、スタッフ間で共有している。利用者の能力を把握し、個別的に対応し自己決定への支援をしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望や要望に対し、速やかな対応が出来る様に職員は協力し合いながら業務を行い、入居者と共に過ごす時間を作り希望に沿った支援が出来る様努めている。又、入居者の行動パターンの把握に基づいた個別対応の実施にも取り組んでいる。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもとより、洋服の購入や理美容の実施等、本人の希望にそって出来るよう、職員が家族と共に支援している。又、メイク道具等は入居者が以前から使用している物を用いてメイクの手伝いをしている。併設施設でも定期的に行われているが個別にてなじみの美容院に行ったりもしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを入居者の記入で提示し、食事の準備や片付けをする時は、それぞれの役割を決め、全員が関わって楽しく参加している。毎月2回のランチパーティー、出前、外食等は、入居者の意見で決め、事前に材料等も職員と共に買いに行っている。バイキングや選択メニューにて好きな料理選べるような支援も行っている。	通常は、老人保健施設の管理栄養士が献立を作成しているが、月に2回のランチは、メニューを利用者と話し合い自前で調理している。出前や外出時のお弁当、バイキング等の食事を楽しむ機会を設けている。日常も利用者がその日のメニューを書いたり、片付けの手伝いをして	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の栄養状況・嚥下状況を把握し、食べやすい食事携帯にしている。高カロリーゼリーや経口栄養剤等も利用し、体重の増減の把握に努めている。水分量をチェックし、1日の摂取量を把握している。摂取量が少ない場合はスタッフ間で情報共有し管理栄養士とも相談の上、必要量が摂取出来るよう支援している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の嗽、毎食後の口腔ケア、就寝時後の入れ歯洗浄を確実に実施している。自力で出来ない入居者には職員がブラッシングなどで支援している。マウスウォッシュ等も使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム・パターンシートの取り入れや、入居者の排泄リズムを把握し、トイレでの排泄に向け誘導、介助に努めている。又、排泄時、異常がないかの確認を行い、異常があれば看護師に報告している。	日常の生活記録以外に、必要に応じて排泄パターンの記録等をとる等、利用者の個々の必要性を捉えた取り組みをしている。外出先のトイレの個所や数の事前確認についても、アセスメントをし自立への支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレにて自然排便を行えるように、水分補給の促し・食物繊維の多い食事摂取・腹部マッサージ実施・リハビリ体操等を行っている。それでも便秘改善されない入居者には、看護師と相談し、必要な服薬等を実施している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する日時は利用者や相談し、その日の体調に合わせて実施する。排泄等により汚染した場合も時間帯関係なく、入浴して頂き保清保持に努めている。季節湯（菖蒲湯・柚子湯等）も楽しんでいただいている。又、皮膚状態の観察をし、異常の早期発見に努める様に支援している。	午前、午後を問わず、利用者の入りたい時間帯に入浴してもらっている。多くの人が個浴を楽しんでおり、ADLに合わせて2人介助もしている。季節湯やデイサービスの大浴場（トロン温泉）の利用もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者の起床時間・入眠時間を把握し入眠し易いよう活動的に日々過ぎて頂いている。夜間は入眠しやすいよう19時に温かい飲み物の提供し、入眠できない利用者には穏やかな気持ちで眠って頂けるようお話を傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の薬の効能・副作用を把握し、血圧・体重・浮腫の測定・経過観察を日々行い病状の変化の早期発見に努めている。又は配薬、服薬確認を職員で連携し確実に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が今までの人生の中で培った知識や得意とする事を日常的な役割（係り）として持って頂き、日々の生活中で輝けるように支援している。利用者の発案と経験から、干し柿やお正月の棒だらの煮付け等も行った。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って散歩や買い物、喫茶店等と一緒に頂いたり、ドライブ等も楽しまれている。家族と食事や定期的に外出される利用者もいる。又、幼稚園や小学校のイベントにも訪問したりお祭りに参加し地域や近隣住民との交流もはかっている。	ランチパーティーの食材は、近くのスーパーに買出しに出かけている。家族と一緒に外出を兼ねて買い物に行く利用者もある。馴染みのお店や、美容院、喫茶店等も利用している。地域のイベントなどにも積極的に参加している。利用者は外出を兼ねてドライブも楽しんでいる。	今後も、地域との交流の中から馴染みの関係が増えていくような取り組みに期待をしたい。



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力と心理的に安心出来る範囲での金額をご家族と職員の了解の下に自己管理する事を基本とし、所持して頂いている。日々の生活の中で買い物や自動販売機、喫茶店で利用して頂いている。		
51			家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と手紙を定期的により取りされる方はスタッフとポストまで散歩を兼ね投函しに行ったりスタッフと共に公衆電話を利用して家族に電話する等、個々に応じた支援を行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからはリハビリ庭園が見渡せ、四季折々の花が咲き、小鳥が飛んで来たりするのを見て楽しまれている。共用の空間にも共同作品や四季の写真、季節に応じたお雛様、五月人形を飾り季節感を演出している。空調にも配慮し、快適な温度管理を行っている。	手入れの行き届いたリハビリ庭園があり、リビングからも自由に出入りができる。広くて明るいリビングスペースや大中小の広さを持ったトイレ、独立した洗面コーナー、個浴対応ができる寛げる浴室等、生活空間が充実している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、家族とゆくりと過ぎて頂けるようリビングには、ソファや椅子、テーブルが置いてある。ゲームや百人一首を楽しまれたり、塗り絵、読書、ピアノを弾く方等、ご自分のペースで思い思いに過ぎて頂いている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの調度品を置き、又、スタッフが利用者や相談の上、居室の様様替えをしたり華道の花や季節の写真を飾るなど本人が居心地良く暮らせるよう支援している。	各居室は広くゆったりしている。ベッドやソファやチェスト等、利用者個々の思いのレイアウトの部屋作りができています。安全面では、個々の利用者のADLに応じた動線確保も徹底されている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランにセンター方式を採用し、利用者一人ひとりの能力が活かせるよう趣味や得意とする事を取り入れ、楽しみながら身体機能が維持出来るように支援している。		